

# キャッシュレス決済に対するリスク意識調査 加藤迅人 ( [22011093hk@tama.ac.jp](mailto:22011093hk@tama.ac.jp) )

## 1. 研究の背景と目的

2018年ごろからキャッシュレス決済が急速に普及してきている。その背景として、東京オリンピックや大阪万博に向けたインバウンド需要などがあると考えられる。経済産業省では、2025年までにキャッシュレス決済を4割程度とすることを目指し、将来的には世界最高水準の8割程度とすることを目指している。

日本のキャッシュレス決済比率は2017年時点では21.3%であったが、2022年時点では32.5%になっており、この5年間で10%以上普及している。

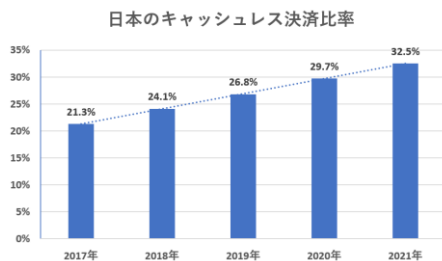


図 1. 日本のキャッシュレス決済比率

しかし、キャッシュレス決済が年々普及していく一方で、クレジットカードの不正利用額の推移も年々上昇傾向にある。2022年のクレジットカードの不正利用額は過去最多の436億円の被害に及んでいる。

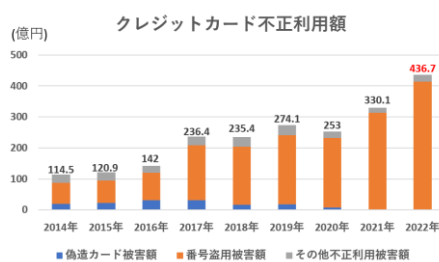


図 2. クレジットカード不正利用額

こうした状況の中で、消費者はどのような意識をもってキャッシュレス決済を利用しているのかについて、意識調査を行う。

## 2. 先行研究

渡邊,森本は、キャッシュレス決済の利用状況、普段財布に入れている金額、利用しているサービス、最も利用したい決済手段、利用しているスマホ決済サービスにつ

いての研究を行い、決済比率は9割程度ということなどを明らかにしている。

しかし、この先行研究ではリスク意識の部分に関する調査が得られていなかった。

そのため、本研究ではキャッシュレス決済の利用状況に加えて、リスク意識についても研究を行う。

## 3. 研究方法

Google フォームを用いてアンケート調査を行う。また、調査対象は20代(20歳~29歳)として、クラウドワークスとゼミ内にてアンケートを実施する。

主な調査内容については、キャッシュレス決済の利用状況を問う質問と決済利用時に意識していることを問う質問で、最大37問用意している。

## 4. 今後の課題とスケジュール

今後の課題としては、集計作業を行っていくことと、得られた回答をもとにどう分析していくかなどが課題となる。

- 2023/08 アンケート集計
- 2023/09 アンケート分析
- 2023/11 完成(目標)

## 5. 参考文献

渡邊,森本(2019). 「スマホ決済における情報系学生のリスク意識に関する研究」. [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasmin/201910/0/201910\\_120/pdf-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasmin/201910/0/201910_120/pdf-char/ja).

(参照日:2023年7月26日)

経済産業省(2023). 「2022年のキャッシュレス決済比率を算出しました」.

<https://www.meti.go.jp/press/2023/04/20230406002/20230406002.html>.

(参照日:2023年7月26日)

日本クレジット協会(2023). 「クレジットカード不正利用被害額の発生状況」.

[https://www.j-credit.or.jp/information/statistics/download/toukei\\_03\\_g\\_20230630.pdf](https://www.j-credit.or.jp/information/statistics/download/toukei_03_g_20230630.pdf).

(参照日:2023年7月26日)